

宇都宮市立田原中学校第3学年生徒質問紙調査

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

★傾向と今後の指導上の工夫

○朝食を毎日食べている生徒が約87%と、県や全国平均より高い。今後は、食事の内容にも目を向けられる働きかけも必要と思われる。

○「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」という質問に対して、「週に1～3回程度行く」と答えた生徒が、県と比べると7.7ポイント、全国と比べると7.6ポイント高い。また、「月に1～3回程度行く」と答えた生徒は、県と比べると6.2ポイント、全国と比べると7.7ポイント高い。それに反して「ほとんど、または、全く行かない」という質問において本校の生徒は、県・全国よりそれぞれ13.1ポイント、16.2ポイント値は低いものの、4割程度の人数を占めていた。このことから、図書館や図書室をよく利用する生徒と利用しない生徒に、偏りや個人差があることが分かる。学校図書館においては、引き続き蔵書の充実や案内・展示の工夫、委員会や教師からの働きかけをしながら、学校、図書館をより身近なものとして活性化していけるように図っていく。

○「家で、学校の宿題をしていますか。」という質問に対して、「している。」「どちらかといえばしている。」と答えた生徒は90.1%と、県の結果に比べて18.8ポイント高い。このことは、「宿題なら（学習）する。」ことを意味していると思われる。

○「あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思いますか。」の質問に対して、「そう思う。」「どちらかといえば、そう思う。」と答えた生徒は89%で、県と比べると4.5ポイント、全国と比べると10.6ポイント高い。このことから話し合い活動が多くの場面で行われているといえるであろう。

○「2年生のときに受けた授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。」という質問に対して、「当てはまる。」「どちらかといえば、当てはまる。」と答えた生徒は90.1%で、全国の結果より5.2ポイント高い。さらに、「当てはまらない。」と答えた生徒は2.2%で、県の結果に比べると0.7ポイント高いが、全国の結果に比べると0.8ポイント低い。このことは教師が概ね目標を提示していたことを示す。

○「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」に対する肯定的回答が97.8パーセントと、県平均を2ポイント、全国平均を3.5ポイントそれぞれ上回っている。学校行事や生徒会活動、学級活動などにおけるそれぞれの役割を明確にし、やり遂げた時の認めや励ましにより生徒の達成感を味わわせ、さらに次への意欲付けを図っていきたい。

○「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定的回答が86.8パーセントと、県平均を4.4ポイント、全国平均を8.8ポイントそれぞれ上回っている。しかし、「当てはまる」の回答で比較すると、県平均を12.4ポイント下回っている。ので、普段の学校生活の中で生徒一人一人に目を向け、ささいなことでも認め励ましていく姿勢を今後さらに大切にしていきたい。

○「1・2年生の時に受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか」の質問では、「どちらかといえば、当てはまる」の回答が48.4パーセントを占め、県に比べて6.8ポイント、全国とでは6.2ポイント高い。しかし、「どちらかといえば、当てはまらない」の回答が27.5パーセントで、県に比べて12.5ポイント、全国では8.6ポイント高い。このことから、生徒の受け止め方が二極化されている傾向にあると取れる。道徳は、扱う教材によって「個」や「グループ」で考える形態が異なるが、学級間で違いが出ないように、教師間で指導の共通理解を図り、学年単位で内容を吟味しながら、様々な心の揺さぶりをかけ、深まった考えを持てるような授業を工夫していきたい。

○「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいですか」という質問では、「どちらかといえば、そう思う」の回答が47.3ポイントと半数を占めている。県と比べると13ポイント高く、全国と比べるとさらに14.8ポイントと高い値となっている。また、「そう思う」と答えた生徒は県と比べて5.1ポイント低く、全国では8.3ポイント低い。このことから、話す・聞くの両分野の表現力においては「話すこと」が入るだけで、苦手意識がやや緩和されることが分かる。そのことがさらに、「そう思わない」の回答が県と全国と比べて4ポイント低いという回答の値にも表れている。授業以外でも話し合いの場などに、しっかりと根拠と主張を意識した発表をしたり、要点を捉えて聞いたりする習慣を意識付けさせ、書くことにもつなげていけるような形を作れるよう指導を工夫していきたい。

●毎日同じ時刻に、起きる寝るという生活ができていない傾向にある。また、午前0時以降に寝ている生徒は、県・全国に比べ高い。生活を見直し、計画的な生活を心がけられる指導の必要がある。

●「学校の授業時間以外に普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という質問に対して、「2時間以上」と答えた生徒は、県と比べると0.9ポイント、全国と比べると1.1ポイント低い。また、「1時間以上、2時間より少ない」と答えた生徒が、県より3.8ポイント、全国より3.7ポイント下回っている。さらに「10分以上、30分より少ない」においては、県と比べると、3.3ポイント、全国と比べると7.1ポイントも高いという結果が見られた。このことから、本校の生徒は学校や家庭において十分な読書の時間が保たれていないということが分かる。余暇に読書を取り入れて、心を落ち着ける時間が確保できたり、読解力や語彙力の向上にもつながたりできる読書の効果を考慮し、学習との両立を図りながら推進していくことは、さらに今後の指導・課題になると思われる。

●「学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、勉強を読みますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の質問に対して「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」と答えた生徒が、県に比べてそれぞれ3.1ポイント、10.9ポイント、5.3ポイント低い。また、全国に比べて5ポイント、7.2ポイント、2.9ポイント低い。さらに、「30分より少ない」「全くしない」と答えた生徒は、県や全国に比べて3.3ポイントから6ポイント高い。このことから本校生徒の多くが家庭学習が不足していることが分かる。「家出、学校の宿題をしている」生徒が90.1%あることなどを参考にして、学校全体として家庭

学習する習慣がつくように、何らかの工夫をしていかなければならない。

●「2年生のとき受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」の質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」生徒の割合が県よりも10.5ポイント低いことから、学校全体として生徒によくわかるように目標の提示やまとめを授業の中で取り入れる工夫をしなければならない。

●「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的回答は67.1パーセントと、県平均を6.8ポイント下回っており、自己肯定感がやや不足している。学校生活の諸活動を通し、教師も生徒をほめて育てる意識を持ちながら生徒に接したり、生徒間でも友達の良さを認め合える雰囲気大切にしたりしていくことにより自己肯定感の醸成につながっていく。日常生活の中だけでなく、学級活動や教科の学習においても、さらに、友達の良さに気付かせながら自分の良さや個性を大切にできるような活動などを意図的に取り入れていきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」に対する肯定的回答が45.1パーセントと、県平均を3.2ポイント、全国平均を5.1ポイント下回っている。自分の考えや意見をしっかり持ったり明確にしたりすることができていないことが、発表に対して苦手意識を持つことにもつながっている。そのため、考える活動や考えをしっかりとまとめる活動を各教科さらに充実させ、そのうえでコミュニケーション能力を高めるための話し合い活動など積極的に取り入れた授業の展開など工夫していきたい。

●「学校に行くのは楽しいですか」に対する肯定的な回答は79.2パーセントと、県平均を5.1ポイント下回っている。学校行事などには意欲を持って生徒同士団結しながら取り組んでいるが、学習に対しては意欲がやや低い傾向にあり、家庭学習の習慣が身につけていない生徒も多い。家庭学習の習慣化により学力の向上を図るとともに、教師もわかる授業の展開など研修を進めながら、生徒たちにとって授業の面でも理解できて楽しい学校となるよう、さらに授業力の向上を目指していきたい。

●「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」の質問においては、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の否定的な回答の割合が高く、「そう思う」を県と比べると7.1ポイント、全国と比べると3.4ポイント上回り、「どちらかといえば、そう思う」では、県と比べると4.5ポイント、全国と比べると7.5ポイント高い値となっている。このことから、書くことに対する苦手意識や抵抗が強いということが分かる。小中一貫教育の課題として受け止め、ステップを踏みながら、書くことを習慣づける機会を設定し、訓練していくようにしていきたい。